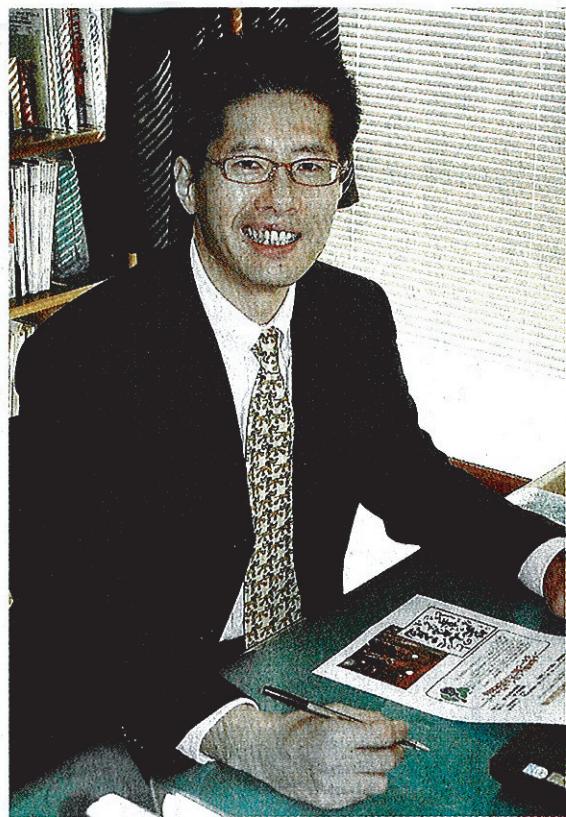


この人に。. サンデーインタビュー



参加者の状態・希望入念に

障害などに関係なく誰でも利用できるという「ユニバーサルデザイン(UD)」を掲げたきっかけは以前、勤めていた旅行会社でも、96年から障害者の海外旅行などを企画していた。普段は靴を履かない障害者が新商品をお試したり、おしゃれをしたりして参加してくれた。その時の参加者の満面の笑みや感激する様子を見て、この思いを多くの人に味わって欲しいと思っていた。

ただ、旅行先の施設にある障害者用トイレは一つか二つが実情。車いすで利用できる

ユニバーサルデザインの旅行会社を設立

宮川 和夫さん (43)

リフト式貸し切りバスが
国的に少ない。「使う人
ないから」と障害者用
場を別の用途に使った本
があつたが、そう言わ
いためにも、もっと障害者
は外に出て欲しいし、旅
きつかけにできればや
うのか
——一般的な旅行と何
い。

も全
が少
駐車
テル
せな
せな
著に
行を
れし
が違
れし
——安心を与えるために準備していることは、
飛行機などの移動手段は確保できるか、障害者対応の部屋は多い宿かといったことに加え、階段の高さや幅まで下調べする。旅行が決まれば、約40人のボランティアの中から参加できる人を探す。ベテランを入れ、参加者の親が付けるなど、男女のバランスや性格も考

えて人選する。参加者からは、症状や希望を聞いた「カルテ」を集め、事前に参加者ごとの対応を考える。海外旅行の場合には、事前にボランティアを参加者の元へ派遣し、症状や希望について手遅いが生じないよう、入念に準備する。

——経営が成り立ちますか

他のツアーナビなどに比べて、割高であることは確か。それでも、探算が取れないとは希望にも応えられなくなる。けれど、それだけの喜びを味わえる旅行を提供したい。まだ、国内的にも例が少ない事

穏やかな雰囲気に揺るがぬ信念

「土産はいらない。一緒に行きたかった」。そう言い、旅行から帰った家族のお土産を振り落とし、涙を流したお年寄りがいたそうだ。

導があるわけではない。ボランティアとの手作りの旅行だけに、改善することは多いかも知れない。それでも設備の整った施設では、味わえない

「高齢になると、旅行なんて行きたがらないという思い込みがある気がする」。そんな心身のバリアを旅行を通してなくしていきたいという。穏やかな雰囲気の中に揺らがない信念を感じた。

経験が得られそうだ。

極端な話、天候の影響や体調の変化などで何が起きるか分からぬ。その都度、知恵を絞り、工夫して切り抜ける必要がある。だが、それこそが閉じられていない現実の世

「世話好きで旅行好き。天職だと思う」と話す。旅行を楽しむ参加者と一緒に喜ぶ宮川さんの様子がうかがえた。
在宅勤務時代でも十分に活躍できる人材を多く育む。それがこの旅の目的だ。

有名な観光地でも十分な誘

業。イメージアップのためにも、支援してくれる企業が出きて欲しい。

もしもの時が心配です
リスクは確かにあります。これまでも、海外旅行で参加者のせんそくが止まらず、病院に搬送したり、尿が出なくなつ
みやがわ・かずお 63年、
の時に熊本市へ。東京の大学
京や熊本の旅行会社に勤めて
11月、UDを掲げた旅行会社
アドレス=info@tabinoy
た。ホームヘルパー2級の資

て、ボランティアの看護師が対処したりしたこともあつた。身内の人も一緒に参加でなければいいが、最後は参加者の自己責任になる。最善を尽くし、理解してもらう。信頼関係を築くしかない。

ハワイ旅行など、毎月数回のツアーページを計画している。定着してから、参加しやすい格安ツアーも考えたい。

白血病など難病の子どもでも、ディズニーランドでミッキーマウスに会える。そんな思い出を残せる旅行もいつかは企画したい。